

主 題：歴史を変えた一通の手紙 聖書箇所：エレミヤ書29章1-11節

皆さんは「自分の人生を変えた一通の手紙」というものがありますか？

私は若かったころに、マッカーサー先生から1通の手紙をいただきましたが、それはまさに私の人生を大きく変えたものでした。マスターズ大学を卒業した後、私はある宣教団体の人たちと一緒にヨーロッパで働きをしていたのですが、その団体は私が学んできた神学よりもはるかに広い神学を持っていたのです。そのような神学的に余り聖書的でない人たちと働きをして行く中で、私はいろいろな疑問を持っていて、マッカーサー先生に手紙を書いたわけですが、先生から返信が来て、その手紙によって私の人生は全く大きな変化をもたらされたわけです。その手紙を送ったことをマッカーサー先生は覚えておられません。先生にとっては余り重要なものではなかったのかもしれませんが、私にとっては私の人生を大きく変えた非常に重要な手紙だったのです。

人間の歴史の中であって、人間の、また、国の行く道を大きく変えた手紙はそれほど多くあるわけではありません。私の友人にアメリカの南北戦争を専門とする歴史家がいるのですが、リンカーンを専門に学んでいる人物に私は質問しました。「国を変えるほど、非常に大きな影響を与えた手紙は何かありますか？パウロの手紙などを除いて何か考えられますか？」と。彼は答えることができませんでした。

今日、皆さんと一緒に見る箇所は手紙です。この手紙は、ひょっとすると、世界の歴史の中であって、一つの国において最も大きな影響をもたらした手紙であると言っても過言ではないと思います。この手紙は、世界の歴史の流れを大きく変えた手紙であるわけです。けれども、この手紙はエレミヤ書の真ん中に、まるで隠されているかのように、だれの目にも触れることなくひっそりとそこに佇んでいて、教会も、多くのクリスチャンも全くそのことを考えることなく、長い間そこにただ佇んでいただけのものでありました。クリスチャンとして長く教会生活を送られている方は、きっといつかどこかでエレミヤ29：11のみことばを聞いたことがあると思います。ひょっとすると、皆さんのうちの何人かは、このみことばを壁に飾っておられるかもしれません。けれども、皆さんが私と同じようであるなら、皆さんはそのみことばは知っていたとしても、それがどのような文脈の中で語られたことなのかを余りよくご存じでないかもしれません。

今日、皆さんとしたいことは、エレミヤ書29章の手紙と一緒に見ることです。そして、そこに書かれている内容を一緒に考えたいのです。なぜ、この手紙が、どのようにこれ程大きな影響をもたらしたのでしょうか？もし、みことばを今まで見たことがなかったとするならば、皆さんはここに書かれている内容によって、きっと大きく驚かれることだろうと思います。私はこの箇所を初めて学んだ時に、そこに書かれていることに大きな驚き、衝撃を覚えました。ここに書かれている事柄をしっかりと皆さんと見て、私たちに適用をしていきたいと思うわけですが、たくさんを言う必要はありません。なぜなら、ここに書かれていることは余りにもはっきりした事柄だからです。ですから、どうぞ、エレミヤ書29章をお開きください。

1. 捕囚の民に宛てて書かれた 1-4節

まず、1-4節までを読みましょう。

- ：1 預言者エレミヤは、ネブカデネザルがエルサレムからバビロンへ引いて行った捕囚の民、長老たちで生き残っている者たち、祭司たち、預言者たち、およびすべての民に、エルサレムから手紙を送ったが、そのことばは次のとおりである。
- ：2 ——これは、エコヌヤ王と王母と宦官たち、ユダとエルサレムの貴族たち、職人と鍛冶屋たちが、エルサレムを出て後、
- ：3 ユダの王ゼデキヤがバビロンの王ネブカデネザルのもとに、バビロンへ遣わした、シャファンの子エルアサとヒルキヤの子ゲマルヤの手に託したもので、次のように言っている。——
- ：4 イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「エルサレムからバビロンへわたしが引いて行かせたすべての捕囚の民に。

私が言ったように、こうして今お読みして皆さんが分かったように、文脈の中ではっきりしていることはこれは手紙であることです。神がエレミヤの手を通してエレミヤのペンによって、エルサレムから捕囚として連れて行かれたバビロンにいるイスラエルの民に向けて書かれたものです。

バビロンの捕囚

皆さん、捕囚についてどんなことをご存じですか？彼らはどうして捕囚に引かれて行ったのでしょうか？北の王国イスラエルは、アッシリアによってもうすでに滅ぼされて人々はいなくなっていました。南の

王国はその後しばらく残っていたわけです。そして、その中でも、ウジヤやヒゼキヤ、ヨシュア王のようにすばらしい王のもとで繁栄の時を迎えることもありました。けれども、ヨシュア王の後、この国はどんどん下降線を下って行ってひどい状況が続き、神は「もう十分だ、わたしはあなたがたを懲らしめる」とおっしゃったのです。そして、神はネブカデネザル王をその地に送り、ご自分の民を占領させたわけです。そして、神はこのユダに住んでいたイスラエルの民を70年の間、その地から取り除いたわけです。

皆さんはなぜ捕囚が70年だったか覚えておられますか？なぜ、それが60年でもなく85年でもなく100年でもなかったのかご存じですか？これは非常に悲しいことです。神はモーセを通してイスラエルに律法を与えましたが、その十戒の中の一つは「安息日を覚えてそれを聖なるものとしなさい」というものでした。この命令は、多くの日本人には守るのが難しい律法ではないかと思います。皆さんは社会的なプレッシャーの中で毎日のように仕事をしないといけない、そういう状況の中におられるでしょう。また、皆さんは仕事をしたいと思っているかもしれませんが、ちなみに、これは日本人だけの問題ではないですが…。この命令はレビ記の中ではもう少し詳しく説明されています。そして、それは単に7日間に1日休まなければいけないというだけではなくて、土地に関しても、休みの年を与えなければいけないというものです。神が言われたことは、皆さん覚えておられると思いますが、6年間その土地を自分たちのために使って、7年目は1年間その土地を休ませなければいけない。そこに生えて来たものは収穫しても構わないけれど、7年目は自分たちで耕して収穫してはいけない、食べ物の心配があるかもしれないけど、絶対大丈夫だからと神はおっしゃったわけです。そのことがレビ記25章に記されています。

そして、レビ記26章では、もし、彼らがこの安息の年を守らないなら、どのようなさばきが起こるのかということが記されているわけです。そのさばきとは何かと言うと、1年間休ませなかったら1年分わたしはあなたをこの土地から取り除くということです。神はイスラエルの反抗に対してもう十分だと言われて、彼らを70年間、その土地から取り除くと言われるわけです。エレミヤを通してそのことをはっきりおっしゃっています。皆さん、数学は得意ですね？彼らはいったい何年間この安息の年を守らなかったのでしょうか。70掛ける7、490年です。彼らは490年間、1年たりともこの土地を休めることをしなかったのです。アサ王などの悪い王の時代であつたらまだ分かることですが、ダビデもソロモンもこの命令に関しては守っても守らなくても構わないと考えていたのです。彼らは490年の間、このように神に従うことをしなかったのです。それで、神は彼らをこの土地から70年間取り除くことを決められたのです。

神は彼らをさばいたのです。イスラエルの民をバビロンに70年間移すことにしたのです。けれども、神はこのようなさばきの中にあっても、彼らの上にすばらしい計画を持っておられたのです。私たちに理解できないことがたくさんありますが、できないことの方が多いのですが、神は常に働きをしておられて、この地上において神の御名が称えられることを心から求めて、その働きをされているのです。そして、このさばきを通して、神はご自身の御名を人々に知らしめようと働きをされていたのです。

この手紙の重要性

(1) 神がイスラエルの民に間違いなく届くようにされた手紙 1－3節

皆さんにこの手紙がどれほど重要だったのかお伝えしましょう。最初の3節は、どうでもいいことが書かれているわけではありません。最初の3節は、ひょっとすると、何かよく分からないけれど、取り敢えず、大切なところに行くまでに読んでおかなければいけない付録みたいなもの、と考えるかもしれませんが、この2－3節は、いったい、だれがこの手紙をバビロニアに持って行ったのかということが告げられています。この手紙はエレミヤがだれに渡しても構わないというようなものではなくて、王が最も信頼していた二人のメッセンジャーに託されたのです。エルアサとゲマルヤという二人の人物は、ユダの王がバビロニアといろいろな話し合いをするに当たって最も信頼していたメッセンジャーとして、何千キロも離れた土地へ送られて行ったメッセンジャーだったのです。この手紙は、神ご自身がご自身の手でバビロンへと引かせて行った民に向けて書かれた手紙であり、神は間違いなく、この手紙が届くようにされていたのです。

(2) 神の大きな計画のために書かれた手紙

この手紙は、先ほどから話している70年間の捕囚の最初のところで送られています。ユダの王国は小さな王国でした。12あった部族のうちの最後の二つの部族が集まったところです。たとえ、もし時間を遡って12部族あった時に戻ったとしても、イスラエルは決して大きな国ではありませんでした。今でもそうです。この当時、イスラエルの国は小さな国でしたし、また、多くの人々はこのイスラエルの国の神がどのような方なのかを知らなかったのです。人々がイスラエルについて最も話をしていたのはソロモンが王のときでした。彼の財産と彼の知恵を彼らはいろいろなところで話していたのです。

もし、これが全世界だとするならば、イスラエルはほんの小さなもので、多くの人たちは彼らのことも彼らの神のことも知らなかったのです。さらに小さなものとして2部族となり、彼らはバビロニアへと引かれて行ったわけです。なぜなら、神は大きな計画を持っておられたからです。神は全世界の人々がこの神がどんな方なのかを知ることができるように、バビロンの捕囚を用いられたのです。

皆さん、ダニエル書4章を覚えておられますね。ネブカデネザル王の話です。彼自身の証です。自分の高慢を彼は告白し、神がその高慢さをさばかれて、7年間、牛のように生活をしたことが記されています。そこからどのようにして悔い改めたのでしょうか？4章をしっかりと見ると、これも手紙であることが分かります。この手紙は、バビロンの帝国の中にいるあらゆる国民と、あらゆることばを話す人たちが読むために書かれたものです。人々はネブカデネザルが7年間正気を失っていたことを知りませんでした。彼に最も近かったほんの一握りの人たちしか知らなかったのです。ネブカデネザルが悔い改めた後、(彼は天にいると思うのですが)、この当時、世界で最も大きかった偉大な帝国の王であった彼が悔い改めたということが告げ知らされていたのです。ダニエル書の6章、新しい帝国が起こっていました。ペルシャ帝国です。ダニエルの6章はライオンの穴の話です。「ダリヨス」と聖書には書かれていますが、これはペルシャの王、クロス王であると思います。皆さん、ダニエルがライオンの穴で一晩過ごした後何が起こったかをご存じですね？そのことが起こった後に、クロス王はバビロンの帝国よりも大きかったペルシャの帝国全土に向かって、この神がどれほど偉大な方なのかという手紙を送ったのです。これが70年の終わりのことです。なぜなら、クロス王がイスラエルの民を捕囚から解放したわけですから。

最初は小さな国民で、ほとんどの人たちがこの神について全く知らなかったその国が、70年の終わりにはダニエルやシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴやその他の神の前に正しい人物たちの働きを通して、全世界の人たちがこの神がどれほど偉大な方なのかを知ったのです。つまり、神の御名に関して言うなら、この70年の捕囚というのはすばらしい結末を迎えたわけです。

(3) 捕囚の民を正しく導くための手紙 4節

けれども、その始まりはそれほどすばらしいものではなかったのです。だから、神はこの手紙を人々に宛てたのです。この手紙が与えられることによって、70年後になって神の御名が全世界に向けて二度も高々と宣言される、そのようなことが起こるようになったのです。それが土台だったのです。神がエレミヤを通して、捕囚に連れて行かれた民に向けて書かれたのがこの手紙です。神はこの手紙を送らなければいけなかったのは、彼らが今まさに捕囚へと引かれて行って、その地であって不満を抱き、不快感を覚えて苦しみの中にいたからです。彼らはまさに自分の土地から取られて、自分の職業を失い、自分の家族と離れ離れになり、多くの人たちは死んでしまったりしたわけです。どのように彼らのことを見たとしても、彼らにはもう希望がないという状態でした。この手紙が書かれた時は、まだ、神殿は滅ぼされていませんでした。でも、このすぐ後に神殿は完全に崩壊してしまうのです。そして、エルサレムの町も崩壊してしまうのです。彼らは幸せではなかったのです。

1999年にコソボで紛争がありました。アルバニアはコソボのすぐ下にあるのですが、セルビア人とアルバニア系のコソボ人との間に紛争があったわけです。コソボからの難民が50万人、その時にアルバニアに入ってきて来ました。彼らは自分の服だけを持ってやって来たのです。彼らの住居は焼き尽くされ、彼らがそこで体験したことは、ここで私が語り切ることができない、想像することができないほど酷いものでした。そして、アルバニアに彼らは避難して来たのです。アルバニアの人口は300万人です。その国に50万人の人たちがやって来たのです。私たちはサマリタンズ・パースという団体と協力して、彼らのために避難民のキャンプを作りました。非常にすばらしい施設を設けて、子どもたちのために学校まで作ったのです。彼らが仮設住宅の中で、できる限り心地よく過ごすことができるようにと私たちは手を尽くしました。コソボの難民の皆さんは少し方言の違いがありますがけれども、アルバニアのことばをしゃべることができるわけです。ですから、コソボの人たちにとってアルバニアというのは、それほど異国ではなかったわけです。けれども、戦争が終わり次第、彼らは自分たちの国にすぐ戻りたいと言ったわけです。戦争が終わったのは夏の終わり、もうすぐ冬がやって来て、厳しい状態が続くので、冬場を越してその後帰ればいいではないですかと私たちは言ったのです。私たちがどれだけ仮設住宅を過ごしやすい環境の良いたころにしたとしても、彼らはすぐにでも自分の国に帰りたいと考えたからです。そこで彼らは帰ったのです。

捕囚に引かれて行ったユダヤ人たちも同じ思いを持ったわけです。私たちはこのバビロニアに居たくないと考えたのです。早く戻りたい、さらに酷いことに、捕囚に連れて行かれたイスラエル人たちの中には偽預言者たちがいて、彼らは「あなたたちはほんの少し我慢していれば、わずかな期間に神は私たちをイスラエルに、エルサレムに戻してくれる」と人々に告げていたのです。その当時でも、人々の繁栄を約束するような説教者たちがたくさんいたわけです。でも、神は彼らをさばきます。彼らはそれこそ仮設住宅に住み、自分たちの生涯を、生活を壊されて、そして、彼らは早く自分の国に戻りたいと考

えたわけです。その時に、神はこの手紙を彼らに与えるのです。それが人々の生活を大きく変えます。

2. 神の命令 5-11節

(1) そこでしっかりと腰を据えて生活をしなさい 5-6節

4-7節をお読みします。そこに書かれている命令に皆さん目を向けてください。

: 4 イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「エルサレムからバビロンへわたしが引いて行かせたすべての捕囚の民に。

: 5 家を建てて住みつき、畑を作って、その実を食べよ。

: 6 妻をめとって、息子、娘を生み、あなたがたの息子には妻をめとり、娘には夫を与えて、息子、娘を産ませ、そこでふえよ。減ってはならない。

: 7 わたしがあなたがたを引いて行ったその町の繁栄を求め、そのために主に祈れ。その繁栄は、あなたがたの繁栄になるのだから。」

今、日本で私が「一時停止ボタンを押して」と言ったら、皆さんはどういう意味か分かりますね？神がここでイスラエルの民に言っていることは、あなたたちは70年が終わるのを待って、一時停止ボタンを押すのではないということです。すべてのことを一旦停止してしまってもしないうで終わりを待つのではなくて、家を建てなさい、そこに住みなさい、仮設で住んでいてはいけない、自分の家を建てなさい。そこに畑を設けて、その実を採って食べなさいと言うのです。彼らはそこでバケーションを過ごしているのでもないし、そこで時間が過ぎるのをただ待っているだけではなくて、そこでしっかりと腰を据えて生活をしなさいと神は命じているのです。私は今ホテルに泊まっていますから、家具を買うことをしません。イスラエルの民に対して神が言われたのは、お客としてそこに居るのはもう止めて、そこに暮らすことを考えて、家を建て、畑を設け、仕事をして、その実を採って食べなさいということです。結婚して、あなたがたの子どもたちも結婚させて、多くの子孫を増やしなさい、短期間の滞在だと思っではいけないというわけです。

皆さん、覚えていますか？イスラエルの人たちは異邦人と個人的な交友関係を持っではいけなかったのです。なぜなら、彼らは汚れた人たちだからです。単に、彼らは汚れていただけではなく、バビロニアに住んでいた人たちは異教徒の偶像崇拝者だったのです。しかも、彼らがイスラエルの民の主人であったわけです。そのような中であって、神はあなたたちは今すぐそこで生活することをしないといけなく、それに取りかからないといけなく、それにしっかりと根差さないといけなくと言うのです。5-6節で神が言っていることを要約するならば、神はイスラエルの民にあなたたちは今いるその社会にあつて、その地にあつて、積極的に社会生活に貢献する市民になって行かなければいけないと言っているのです。

(2) その町の繁栄を求め、そのために主に祈れ 7節

そして、7節は、もしこの箇所をしっかりと学ぶことをしたことがなかったら、きっと、皆さんに大きな衝撃を与える節だろうと思います。なぜなら、神が人々にここで命じていることは、私たちの想像をはるかに超えることだったからです。神がここで求めていることは「わたしがあなたがたを引いて行ったその町の繁栄を求め」なさいです。この「繁栄」と訳されていることばは、ヘブライ語の「シャローム」ということばです。皆さんに最もよく知られているこのことばの意味は「平和」だろうと思いますが、このことばには「繁栄」とか「財産」という意味合いがあるのです。つまり、神がここで命じていることは、あなたたちはあなたたちが憎み、汚れているこのバビロニアの人たちの最善を求めなさいということです。この手紙を初めて目にしたイスラエルの人たちは、7節のことばを目にしたときに「はあ？」と言ったわけです。彼らは「シャローム」というのがどういう意味か分かっていたからです。「神さま、あなたはこのバビロニアの人たちにシャロームを求めなさいと言われるのですか？彼らが私たちに何をしたかご存じでしょう？本当ですか？」と。「そうだ！」と神はと言われるのです。神はあなたがたは自分たちの敵に対するシャロームを求めなさいと言われるのです。これは単に、遠くの敵に対してそのように祈り求めなさいではなくて、今まさに捕囚としてその民の真中に住まなければいけない状況の中でそのようにと言われるのです。

皆さん、ここに敵がいないことは私は知っています。でも、私がアルバニアの人たちに話をする時には、彼らはセルビア人たちのことを思い浮かべることができます。そして、何世紀もの間、セルビア人たちがアルバニア人に何をしたのかということを考えた時に彼らは、「私たちは彼らに絶対にシャローム、繁栄を願うことなどできません！」と言います。そんなことは考えられない、その町の繁栄を求め、さらに「そのために主に祈れ」なんてできないと。旧約聖書の註解者は、この「彼らのために主に祈れ」というのは、彼らの救いを求めて祈れという意味だと言います。皆さんがよくご存じのように、最もすばらしいシャロームは何かと言うと、それは「神との平安」です。神と和解することです。「その町の繁栄を求め、そのために主に祈れ」と。

イエスは「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と言われました。ここでは非常に具体的な形でそれが表わされているわけです。神はバビロニアの人たちのために最善を、繁栄を祈れ、求めなさいと言われるのです。神はイスラエルの人たちに向かって、70年間、とにかく何とか我慢して凌ぎ切りなさいと言っているのではないのです。神はイスラエルの人たちに向かって、小さくても自分たちの社会を作って、そこで自分たちで何とかやり切りなさいと言っているのでもないのです。あなたたちがバビロンに捕囚として過ごしている間中、あなたたちはバビロンの人たちと関わりを持たなければいけないと言うのです。単に共存するだけでなく、積極的に彼らにとっての最善を行なっていきなさいと言うのです。これがどれ程私たちの想像を超えたことか分かりますか？我々はこんなことを考えつくことができません。でも、この捕囚の70年の始まりに、神がそれを人々に向かって求めるのです。いったい、どのようにしてそれをするのでしょうか。どのようにそれが為されたのでしょうか？彼らはこのことにおいて非常な成功を収めました。

特に、ダニエルにおいて為されました。ダニエルは、ネブカデネザル王が正気を失っていた時に、バビロニアの帝国を手に入れる機会が何度も何度もあったのです。ダニエルはネブカデネザル王の指輪、証印を持っていて、彼はその国の中で何でもすることができたにもかかわらず、バビロンの繁栄のために努めたのです。なぜ、バビロンが繁栄したかという、それはダニエルたちユダヤ人のお陰です。クロス王の時代でも同じです。なぜ、ペルシャ帝国があれほど偉大なものになったのかと言うと、彼の統治の間、ユダヤ人たちが彼らのために繁栄を祈り求めたからです。彼らの友人たちにそれをするように導いたのです。

(3) その繁栄はあなたがたの繁栄になる

そして、それは彼らにとっても大切なことでした。彼らの従順はイスラエルのための祝福にもなったからです。なぜなら、神がここで言われることは「そのために主に祈れ。その繁栄は、あなたがたの繁栄になるのだから。」だったからです。多くのクリスチャンの宣教師たち、特に、イスラム教会に向かって働きをしていた宣教師たちはこの事柄を無視してもいいと思っていたのです。多くの時に私たちが考えたことは、どのようにして彼らを助けるのかではなくて、どのように彼らに反論することができるのかということだったのです。けれども、彼らの最善を願って、どのように彼らを助けることができるのかを考えていた人たちに対して、神はその働きを祝されたのです。

(4) 偽預言者たちに耳を傾けてはいけない 8-9節

8-9節には、また、命令が記されています。「まことに、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。「あなたがたのうちにいる預言者たちや、占い師たちにごまかされるな。あなたがたが夢を見させている、あなたがたの夢見る者の言うことを聞くな。:9 なぜなら、彼らはわたしの名を使って偽りをあなたがたに預言しているのであって、わたしが彼らを遣わしたのではないからだ。——主の御告げ。——」、偽預言者たちに耳を傾けてはいけないということが記されています。

(5) わたしはあなたがたのために大きな計画を持っている

そして10-11節には神からの祝福があるわけです。「まことに、主はこう仰せられる。「バビロンに七十年の満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにわたしの幸いな約束を果たして、あなたがたをこの所に帰らせる。:11 わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」神が何かを命令されてその命令に従うときに、そこには必ず大きな祝福があるわけです。神は「あなたがたは町の繁栄を求め、そのために祈らないといけない。そのようにするとき、何が起こるかわたしはちゃんとわかっている。」と言われます。11節に「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。」とある通りです。神は「わたしを信じなさい、わたしを信頼してわたしに従いなさい。わたしはあなたがたが考えることができないような大きな計画を持っている。」と言われるのです。「バビロンの繁栄を祈るのですか？」、神は「そうだ！」と言われた。70年経った後、必ずイスラエルに戻るけれども、その間、あなたたちは繁栄を求めなさいと。この小さな国はそれをしたのです。完全ではなかったかもしれませんが。でも、彼らはそれをしたゆえに、神の御名は大いに称えられ、彼らは70年経った後に自分の地に戻って行ったのです。

適用

まとめに入りましょう。ここは浜寺聖書教会ですから、聖書的に解釈するならば、この手紙はこの当時バビロンに捕囚に引かれて行ったイスラエル人に向けて書かれた手紙であって、私たちに向けられたものではありません。ですから、11節に書かれている約束は、その当時のイスラエルの民に与えられているもので、私たちに与えられているものではありません。けれども、このことを私たちに適用することはできないでしょうか？できますね、間違いなく。皆さん、この地上に何年ぐらい生きるか分かりますか？モーセは言いましたね、70年、もし強ければ80年です。ここにいらっしゃる皆さんのうち

の何人かの方は非常に強い方ですね。

私たちが悔い改めて神の恵みを受け入れた後、私たちは天国への希望をもってこの地上でどのように生きるべきですか？私たちはイエスが再臨されることを単に待ち望むだけなのでしょう吗？天に上げられることを単に待ち望んでそれを待っていればいいのでしょうか？何となくクリスチャンみなが集まって、交わりを保ちながら、さあ、神さま、早く来てくださいと待っていればいいのでしょうか？いったい、どのようにして生きればいいのでしょうか？私たちの真の故郷は天国です。私たちはそこに居たいのです。私たちの主と一緒に永遠にそこに居たいと願っています。でも、兄弟姉妹の皆さん、私たちが天に迎え入れられるその日まで、私たちはこの地上において、私たちの社会の中で、積極的に働きを為さなければいけないのです。神の栄光のために。神が私たちを天に召してくださるその時まで、私たちは私たちの周りにいる人たちのシャロームを請い求めないといけません。この世の人たちはそのことは分かりません。でも、神は約束してくださっています。私たちには未来があり、約束があることを。失うことのない相続財産があることを。私たちは何にしがみついているのですか？私たちはそれを与えなければいけないのです。私たちの持っているものを与えて仕えないといけません。私たちは天に守られている安全な相続財産があります。私たちは出て行って、積極的に働かなければいけないのです。

私がアメリカでイスラム教圏の話をする時に、人々はまるでそのことに全く耳を貸すことができないような応答をします。教会の中にあってもそうです。アメリカ人はイスラム教徒たちのことが余り好きではないのです。彼らはイスラム教徒たちを恐れています。でも、私たちはそんなことをしてはいけません。私たちはイスラム教徒たちの繁栄を求め、彼らのために祈らないといけません。全世界の人口の三分の一ほどの人たちがイスラム教徒として居るわけです。25年ほど前、アラスカ州にいたクリスチャンの働き人たちの数とイスラム教圏にいるクリスチャン宣教師の人数を比べたら、アラスカで働きをしている人たちの方が多かったのです。カリブ海に行きたいと願っている宣教師を見つけることは簡単です。非常に気候のいい、すばらしい環境のところに宣教師を送ろうというならば、幾らでも手を挙げる人はいるかもしれないけれども、イスラム教圏に行く人を見つけるのは非常に困難です。私たちにはイスラム教圏に日本人が必要なのです。日本人の教師たち、日本人のビジネスマンたちがそこでイスラム教徒たちのシャロームを求めて、繁栄を求めて主の前に祈っている、そのような人たちが必要なのです。

主が私たちに勇気を与えてくださるように。神のみことばをしっかりと実践して行く勇気を備えてくださるうちに……。